



しあわせ信州



学びと自治の力みなぎる県づくり

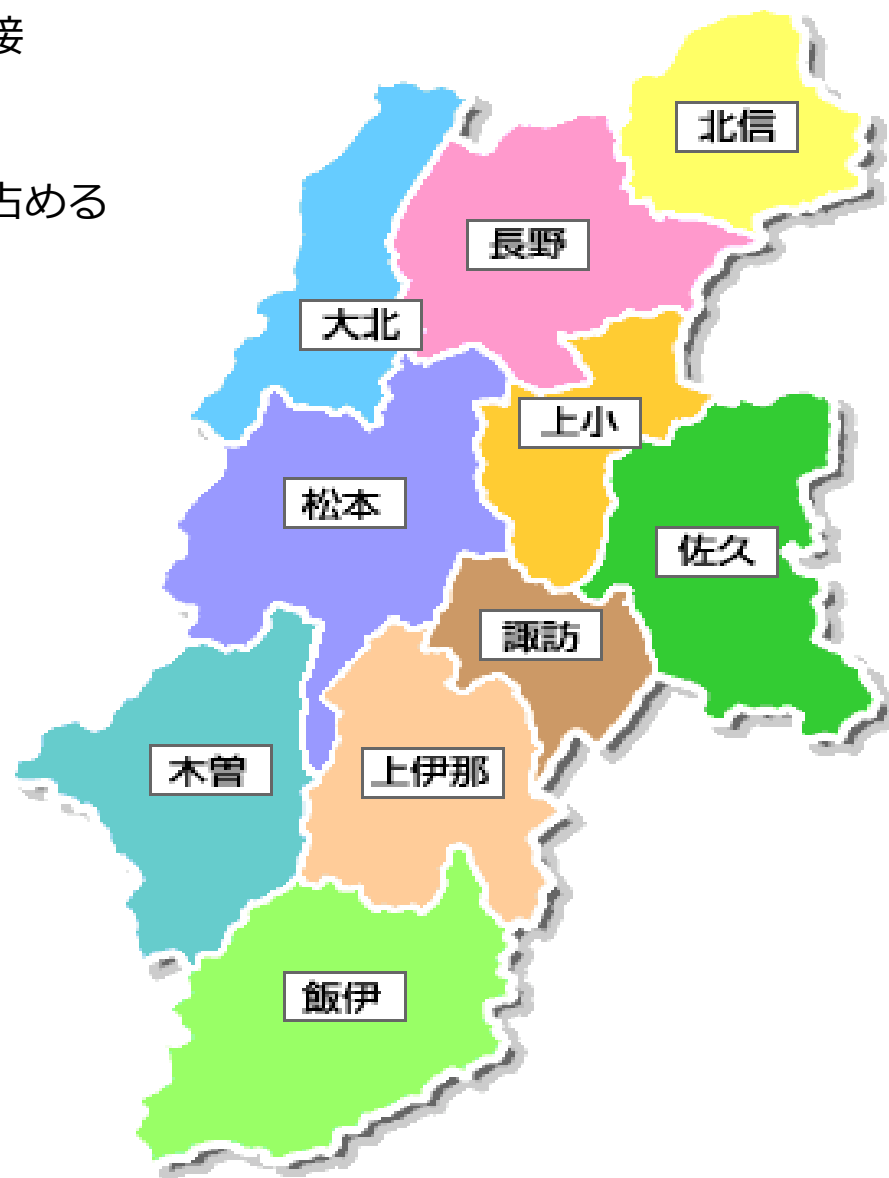
～対話と学びで地域をつくる～



令和元年 5月31日
長野県 企画振興部 地域振興課

- 日本列島のほぼ中央に位置し、8つの県と隣接
- 全国4番目の広大な県土
- 標高3千メートル級の山々や県土の約8割を占める森林など、豊かな自然や美しい景観が広がる
- 小さな拠点数 50か所 (平成31年3月末)

人口	2,098,804人【全国16位】 (平成27年10月国勢調査、年齢不詳含む)
世帯数	807,108世帯【全国16位】 (平成27年10月国勢調査) (1世帯当たり人員2.60人)
面積	13,561.56 km ² 【全国4位】 (平成30年全国都道府県市区町村別面積調)
市町村数	77 (19市23町35村)【全国2位】 (都道府県別市町村数の推移)



過疎地域の現状

- 県内77市町村中、37市町村が過疎市町村
- 37市町村の内訳
全部過疎市町村：29
一部過疎市町村：8
- 面積は県内総面積の約半数

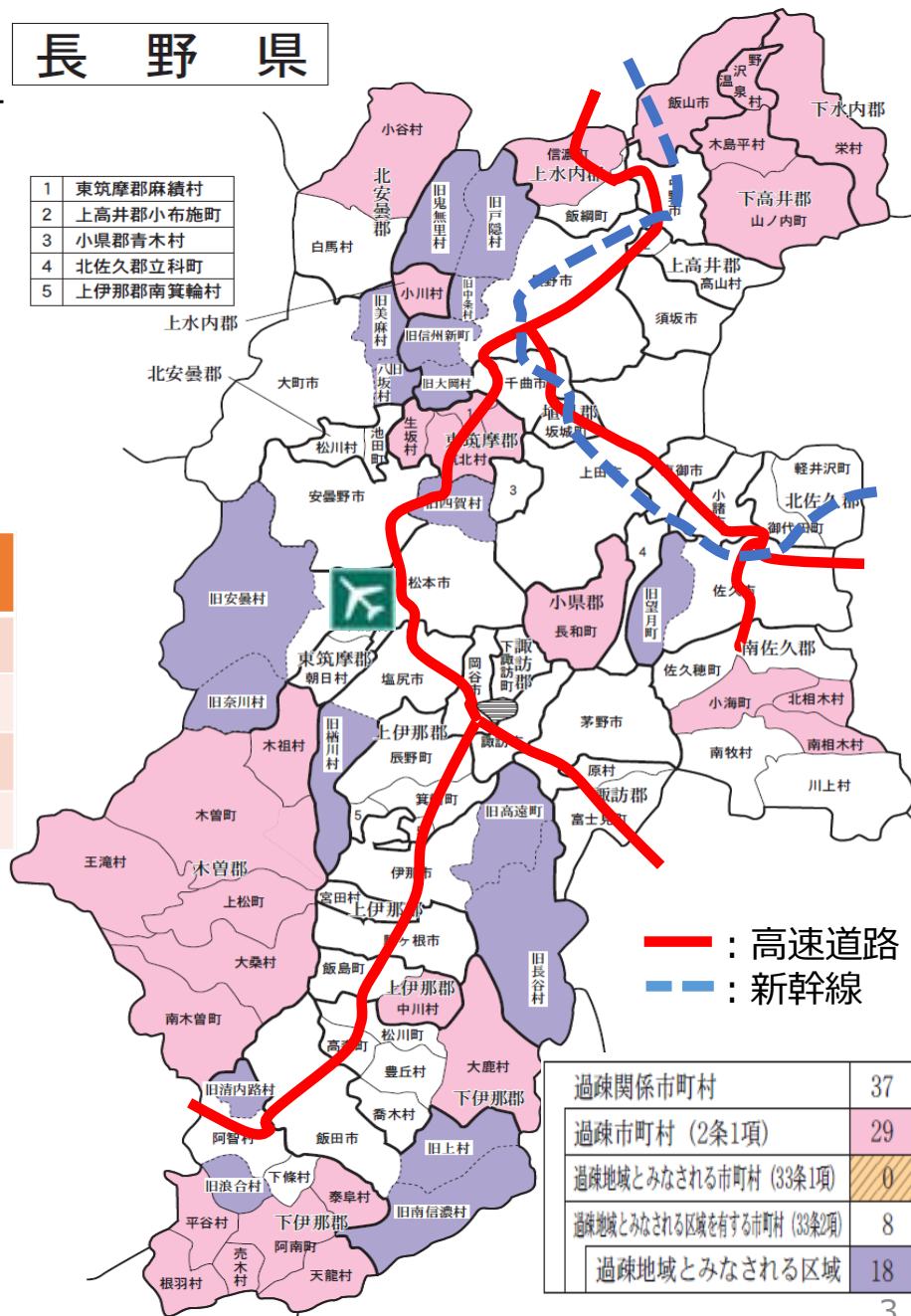
項目	市町村数(H30.4.1)				面積 (km ²)
	市	町	村		
過疎市町村(A)	37	8	8	21	6613.91
全市町村(B)	77	19	23	35	13,561.56
割合(A)/(B)	48.1%	42.1%	34.8%	60.0%	48.8%

注1) 過疎市町村の面積は法2条指定の29市町村及び同33条指定の過疎地域とみなす旧18町村の数値

注2) 面積はH27国勢調査の結果による。

長野県

1	東筑摩郡麻績村
2	上高井郡小布施町
3	小県郡青木村
4	北佐久郡立科町
5	上伊那郡南箕輪村



**高速交通網が未整備の地域が過疎地域と
なっていることが窺える。**

過疎関係市町村	37
過疎市町村 (2条1項)	29
過疎地域とみなされる市町村 (33条1項)	0
過疎地域とみなされる区域を有する市町村 (33条項)	8
過疎地域とみなされる区域	18

【長野県を取り巻く現状】

- 急激な人口減少と東京圏への人口流出
- グローバル化の急速な進展
- 人生100年時代へ etc . . .

【長野県の特長】

- ✓ 多様な個性を持つ地域
- ✓ 全国トップレベルの健康長寿
〔国内上位の長寿県、高齢者の就業率全国1位^{※1}〕
- ✓ 自主自立の県民性
〔公民館数・博物館数全国1位、人口10万人当たりの図書館数全国4位^{※2}
地域の強い絆が「白馬の奇跡」に見られた災害時の助け合いに繋がっている^{※3}〕

「学びと自治の力」を推進エンジンとして、
クリエイティブな社会、安心して希望ある社会をめざす。

※1 平成27年都道府県別生命表では女性が全国1位、男性が全国2位(厚生労働省)

平成27年度国勢調査就業状態等基本集計結果(総務省)

※2 平成27年度社会教育調査(文部科学省)博物館数は、博物館法による登録博物館、博物館相当物施設、博物館類似施設の合計。
人口当たりの図書館数は全国4位。

※3 平成26年11月に発生した神城断層地震(最大震度6弱)において、多くの家屋が倒壊した中であって、住民らによる迅速な対応により、1人の犠牲者も出なかったことが評価された表現。

総合計画『しあわせ信州創造プラン2.0』 ～学びと自治の力で拓く新時代～

「学びと自治の力」とは

与えられるだけの受動的な教育ではなく、自らを高めるために主体的に学び、これを社会や組織の中で共有し、各人が協働して地域の課題を解決していこうとする力

計画の構成

基本目標

確かな暮らしが営まれる美しい信州
～学びと自治の力で拓く新時代～

政策推進の
基本方針

学びの県
づくり

産業の生産
性が高い県
づくり

人をひきつ
ける快適な
県づくり

いのちを守
り育む県づ
くり

誰にでも居
場所と出番
がある県づ
くり

自治の力
みなぎる
県づくり

クリエイティブな社会をつくる

安心で希望あふれる社会をつくる

総合計画『しあわせ信州創造プラン2.0』 ～学びと自治の力で拓く新時代～

計画の構成

政策推進の基本方針

1 学びの県づくり



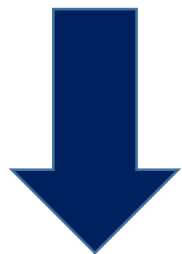
6 自治の力みなぎる県づくり

該当する重点政策

- 1-1 生きる力と創造性を育む教育の推進
- 1-2 地域とともに取り組む楽しい学校づくり
- 1-3 高等教育の振興による知の拠点づくり
- 1-4 生涯を通じて学べる環境の整備

- 6-1 個性豊かな地域づくりの推進
- 6-2 信州のブランド力向上と発信
- 6-3 地域振興局を核とした地域課題の解決

H30.6 作成 長野県HP で公表



平成30年（2018年）6月

長野県 中山間地域の住民力・地域力による社会的事業支援研究会
小さな拠点分科会

取組のプロセスから見た地域活動ケース分析集

<https://www.pref.nagano.lg.jp/shinko/kensei/shichoson/shinko/bunsekishu.html>

研究会のはじまり

平成28年度

農山村地域の振興について検討し、新たな施策を構築するため
「庁内検討チーム」を設置 ⇒ 持続的な経済構造を創り上げる必要あり

平成29年度

10年、20年後を見据えた持続可能性を模索するため、住民自らが学ぶことで課題を発見し、社会的事業化等の取組により課題解決していくことにおける県の政策的可能性を研究するため、**「中山間地域の住民力・地域力による社会的事業支援研究会」**を設置（H29.9）

小さな拠点分科会（H29.11設置）

研究会メンバー

企画振興部

農政部

教育委員会

地域振興局

有識者

【オブザーバー】
長野県市長会・町村会
JA長野県くらしのセンター

※テーマ・内容によって関係者を拡大（福祉・産業・移住など）

「事例集」ではなく「分析集」とした理由

検討スタート時

県内市町村における「小さな拠点」の事例を取り上げて、取組の「ファーストステップ」に特化した「事例集」を作成しよう！



研究会の学び

- ・「拠点や組織の形成」はプロセスから導かれた結果である
- ・「拠点を形成しました」という事例を紹介することよりも、「取組の過程でどう判断してそうなったのか」というプロセスそのものを分析することが大切である



めざす成果物

地域住民等が主体となり取り組んでいる「地域活動」を取り上げて、その取組が行われてきたプロセスについて研究し、まとめてみるという新しいタイプの分析集にチャレンジ！

「分析集」のポイント

ポイント

取組の中で「何が行われてきたか」ではなく

「その時どう判断したか」

視点1

地域住民が作りだしたいと思う状態

地域で描くめざす姿 ・ ビジョンを明確にする

視点2

地域にある物語
(アイデンティティ・資源・プロジェクト)

歴史・文化・風土など、取組の背景にあるものをしっかり見る

視点3

「各事業の分岐点における判断」

あの時の判断があったからこそ、今がある

「分析集」で取り上げた地域活動の取組 ①

団体名	着眼点	キーワード	取組のポイント
千代しゃくなげ会 飯田市 千代地区	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根付いた公民館活動 ・住民自治の取組が機能している ・キーパーソンの存在 ・地域住民の理解 	公民館活動 地域の学び	<ul style="list-style-type: none"> ・キーパーソンの存在 ・持続しやすい環境整備 ・活動に対する地域の人たちの理解 ・後継者づくりに成功
食工房 十三の里 飯田市 上久堅地区			



ヒアリングの様子



お弁当作りの様子

「分析集」で取り上げた地域活動の取組 ②

団体名	着眼点	キーワード	取組のポイント
<p>真田の郷まちづくり推進会議</p> <p>（上田市 真田地区）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外から来たファシリテーターに対する地域住民の思い ・外から来た人が地域に入って、コミュニケーションをとる方法 ・充て職で仕方なく参加していた住民意識が変わった瞬間に、何が起こっていたのか ・人をやる気にさせる「ファシリテート力」 	<p>行政主導 ゼロからの対話 ファシリテーターの役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターの存在 ・対話の積み重ね ・活動や思いを地域で共有し、取組に対する機運を醸成



ヒアリングの様子



ワークショップの様子

「分析集」で取り上げた地域活動の取組

③

団体名	着眼点	キーワード	取組のポイント
NPO法人 ふるさと 長野市 信州新町 地区	<ul style="list-style-type: none"> ・商店主の団結力、葬儀をやると決めた着眼点 ・地域にあるニーズとリソースをどう活かしたか ・ニーズに対応できる供給力体制の確立 ・地域における信頼関係 ・一人多役 ・日常を支える一石十鳥の取組 	住民主体 自発的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地元商店主の着眼点、行動力、団結力 ・地域経済の循環、一石十鳥の取組 ・地域のつながりから生まれる信頼感



葬儀を取り仕切るメンバー



葬儀の段取り確認の様子

「分析集」で取り上げた地域活動の取組

④

団体名	着眼点	キーワード	取組のポイント
<p>御田町商店街</p> <p>(下諏訪町 御田町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の歴史や特性を踏まえ、地域のリソースをどのように活用したか ・キーパーソンの存在 ・おかみさん会による移住者への見守り(伴走)支援 	<p>プロデューサーの役割</p> <p>プラットフォームとしての役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「モノを売る場所」から「コトづくりの場所」への発想転換 ・「リソース」「アクション」「シェア」の視点 ・町を支える4つの力「Stock」「Value」「Rest」「Design」 ・キーパーソン(プロデューサー)の存在



御田町商店街の皆さん



みたまち おかみさん会

「分析集」の勘どころ

その1

何かをやるときには、一人ではできない 【御田町商店街からの学び】

その2

学びと住民自治の力 【飯田市、真田の郷からの学び】

その3

地域は複合的に動き、活性化する 【NPO法人ふるさとからの学び】

その4

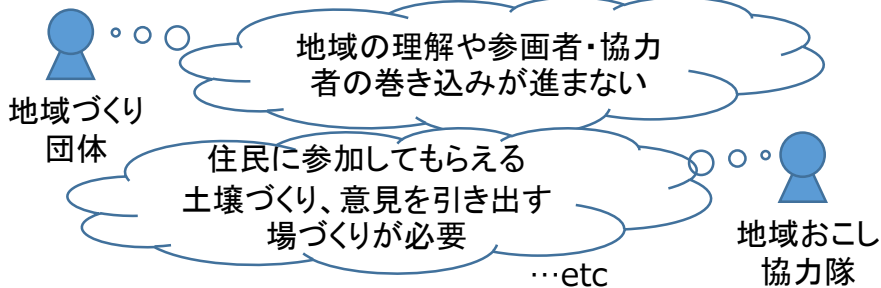
多面的な視点で取組を見ることの必要性 【プロセスヒアリングからの学び】

その5

仕事に対する意識改革・固定観念からの脱却 【分析集作成を通しての学び】

まちむら寄り添いファシリテーター養成講座(H30～)

背景・課題



事業の必要性

地域住民が自ら地域を知り、地域の未来を考える「学び」の場の創出

講演会・勉強会や単発のワークショップではなく、

- ①地域住民が主体的に関われるテーマで
- ②経験・体験による学びが得られる
- ③継続的な取組みが重要

地域に寄り添うファシリテーターの存在が不可欠!

コンセプト

持続可能な地域づくりを目指し、自分たちの地域の価値や可能性、課題を捉えなおし、住民が主体となった活動の芽を産み育てる「対話を通じた学びの場」を、地域住民の方々と共に作っていく方法を、座学と活動実践を組み合わせて学ぶ。

講座で身に付ける力

- ・実践し学び続ける力
 - ・「巻き込み促す」力
 - ・「意味付け」の力
 - ・「問いを立てる」力
 - ・「問いを立てる」力
 - ・「中長期的かつ多面的・複合的な視点・視座で捉える」力
- +
- 基本的な心構え

育成を目指す人物像

- ◇地域住民主体の活動の芽を育てられる人材
- ◇対話や経験学習を通じた地域住民の「学び」を促すことができる人材
- ◇地域の価値や可能性を地域住民が再発見する手助けができる人材

まちむら寄り添いファシリテーター養成講座（H30年度実績）

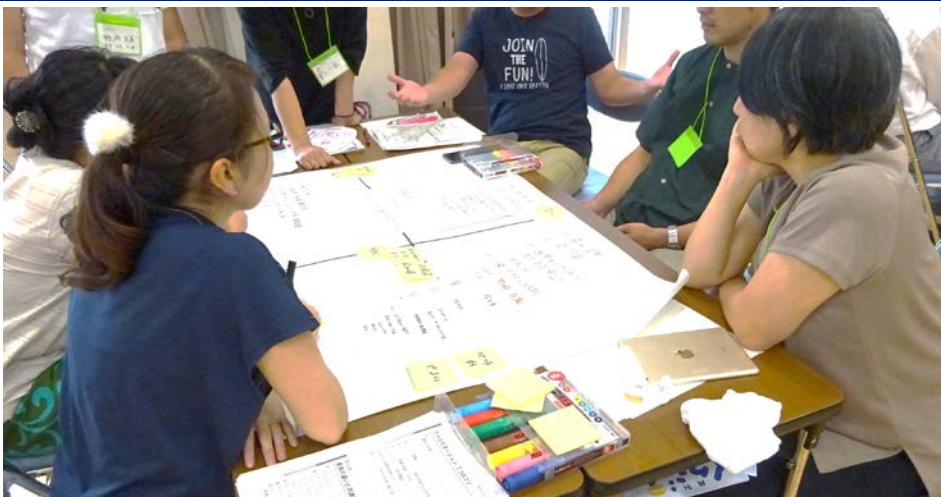
受講対象

- 中間支援的活動を志向する者
 - ・既に担い手の支援を行っている方
 - ・地域おこし協力隊OB・OG など
- 地域のリーダーや地域づくり活動の右腕的人材
- 現場を担当する市町村職員 ● 公民館職員 ● 県職員

実施内容

	内容
第1回（公開）	持続可能な地域をつくる視点・視座を学ぼう、体験しよう
第2回	開講式・オリエンテーション／参加型の地域づくりに求められること ほか
第3回	自分のテーマを伝え、分かちあう／地域の課題把握とビジョン ほか
第4回	各チームで実践準備
第5回	各チームの企画や準備状況について共有・学び合い
第6回	実践活動中間ふりかえり
第7回	各チームでワークショップの実践
第8回	閉講式／実践活動報告／これからの活動計画発表

まちむら寄り添いファシリテーター養成講座



昨年度の受講者の声



様々な人を知り、対話の重要性を実感したのは、実践が入っていたからこそだと思います。

長野県に同じ志の人が大勢いることが分かり、大変力になりました。



地域発 元気づくり支援金

制度の趣旨

豊かさが実感でき、活力あふれる輝く長野県づくりを進めるため、市町村や公共的団体が住民とともに、自らの知恵と工夫により自主的、主体的に取り組む地域の元気を生み出すモデル的で発展性のある事業に対して、支援金を交付する。

交付対象者

- 市町村、広域連合、一部事務組合
- 公共的団体等(地域づくり団体、NPO、自治会など)

重点的に推進するテーマ

- [県全域]信州こどもカフェの推進
信州ACEプロジェクトの推進 など
- [地域]地域振興局ごとに設定

補助率と補助下限額

区分	対象者	補助率【重点テーマ】
ソフト	市町村等、公共的団体等	3/4以内【4/5以内】
ハード	市町村等(次の市町村を除く。) 財政力指数が県平均以下	1/2以内【2/3以内】 2/3以内【3/4以内】
	公共的団体等	2/3以内【3/4以内】

○補助金の下限額:30万円

補助対象事業

自らの知恵と工夫により自主的、主体的に取り組む地域の元気を生み出すモデル的で発展性のある事業のうち、次に掲げる事業

事業区分	対象事業例
地域協働の推進	○地域づくり市民フォーラムの開催
保健、医療、福祉の充実	○活動量計等を活用した健康づくり促進のための環境整備 ○子育て支援を行うためのネットワークづくり
教育、文化の振興	○伝統文化の保存・伝承事業 ○文化・スポーツ振興のための交流イベントの開催や環境整備
安全・安心な地域づくり	○防災対策や防災意識の向上に資する事業 ○自主防災組織の活性化支援
環境保全、景観形成	○ホテルの飛び交う自然環境の再生事業 ○地域の貴重な財産を後世に残すための景観整備
産業振興、雇用拡大	(観光) ○街歩きガイドブックの作成、観光ボランティアの育成 (農業) ○遊休荒廃農地の復元事業 (林業) ○間伐材を活用した木炭の生産支援、森林体験学習事業 (商業)等 ○商店街活性化イベントの開催、空店舗を活用した定期市の開催
市町村合併に伴う地域の連携の推進	○合併によるブランド統合や一体的な観光資源の開発

雷電為右衛門生誕250周年記念 どんどこ巨大紙相撲大会

〔丸山晚霞記念館協力会(東御市)〕

【背景】

東御市は、史上最強の力士と名高い雷電為右衛門の生誕地であるが、これまで雷電の顕彰活動は一部の人たちによってしか行われずにいた。

【事業内容】

① 巨大紙力士制作ワークショップ

家族、学校のクラス、企業、地域住民の団体、高齢者施設などがチームを組んで、雷電為右衛門と同じ身長197センチの紙力士を制作した。

② 巨大紙相撲大会

土俵、吊り屋根のほか、行司、審判、呼び出し、部屋割りなど、できる限り大相撲を模して開催し、ワークショップで制作した紙力士の取組を行った。

【事業効果】

- ・市民に雷電の存在がより身近になった。
- ・ワークショップには190人、相撲大会には450人が参加し、世代や様々な立場、役割を超えた市民交流と一体感を創出することができた。
- ・文化芸術が地域の課題を解決するための大きな力の1つであることを理解してもらった。

事業タイプ	ソフト事業
事業費	597,612円
支援金額	478,000円



【ポイント】

紙相撲力士の制作から大会の開催まで、子どもから大人まで地域全体でイベントを作り上げ、地域の一体感を醸成することができた。

また、企業の協賛・協力も得られており事業の継続が見込まれ、今後も地域に根付いた取組となることが期待される。

国際観光都市松本推進事業

〔NPO法人 アルプス善意通訳協会(松本市)〕

【事業の目的】

松本城を中心に多くの国からの観光客が増える中、英語以外の言語で外国人観光客に松本の魅力や日本文化等を紹介できるガイドの養成を目指すとともに、幅広く市民も受講できる歴史文化講座等を開催し、「おもてなしの心」を広める。

【事業内容】

○ガイドの多言語化

フランス語、スペイン語、中国語の語学講座を開催し、各言語のガイドの養成を行った。

○外国人にやさしい街づくり

市内店舗向け英語メニュー、英語QA集、ALSA紹介カード(ボランティアガイドPRカード)を作成し配布した。

【事業効果】

○ガイドの多言語化

平成30年度末における養成数

フランス語:4名 スペイン語:4名 中国語:4名

○外国人にやさしい街づくり

店舗メニュー、英語QA集を46軒に配付:売上向上、観光客満足度向上

事業タイプ	ソフト事業
事業費	1,381,702円
支援金額	1,105,000円



【ポイント】

ガイドの多言語化のほか、地域の歴史文化を踏まえたガイドができるような観光案内ボランティアの育成や「外国人にやさしい街づくり」に取り組んでいる。

行政等と連携し、地域住民自ら国際観光都市の実現に取り組むモデル的活動である。

北原区くるみによる 元気な地域づくり事業

〔北原区ふるさと暮らし支援委員会(飯山市)〕

【事業の目的】

平成20年度にオーナー制度を活用してくるみの苗を植え、平成28年に一部収穫できるまで成長した。収穫祭を開催してオーナーと交流するほか、くるみのブランド化、試行販売を行い、コミュニティビジネスとして確立させ、区費負担の軽減を図る。

【事業内容】

- くるみ洗浄機械の購入、乾燥させる棚の設置等
- オーナーがくるみを収穫するシステム(ルール)の構築、オーナー表示用のベストの作成、収穫祭の開催
- マーケティングの専門家を交えた住民主体による統一ブランド・地域販売運営組織「きたはらスタイル」を立上げ、道の駅で商品名「村ぐるみ」として試行販売

【事業効果】

- 収穫祭は、オーナー20名中8名をはじめ13名参加
- 平成29年度は、収穫した4,000個のくるみのうち約1,000個が販売可能で、来年度以降収穫量も増えることから、継続的に収益が得られる見込みが立った。
- オーナーに北原区が「第2のふるさと」という思いが醸成され今後の移住への足掛かりや関係人口の創出につながった。

事業タイプ	ソフト・ハード事業
事業費	756,720円
支援金額	592,000円



【ポイント】

平成20年以来、毎年、くるみの木オーナーと地域住民との交流が継続しているほか、住民主体による運営組織の立ち上げや商品の試行販売を行った。関係人口の創出やコミュニティビジネスのモデルとして発展性が期待できる。

ご清聴ありがとうございました



長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ